

令和2年度第1回 燕市図書館協議会 会議録（要旨）

- 日 時 7月27日（月）午後2時00分～3時30分
- 会 場 燕市中央公民館 3階 中ホール
- 出席委員 池田忍委員、加藤一夫委員、澤田麗子委員、白椿晴江委員、水戸巖委員、
宮本美由紀委員、柳原康浩委員、和平秀樹委員
- 欠席委員 須田なつみ委員、田中淳子委員
- 事務局 燕市教育委員会 宮路教育次長、石田社会教育課長、石黒課長補佐、
古澤副参事（生涯学習推進係長）、竹田主事
指定管理者 村山館長、宗村業務責任者（燕市立図書館）
- 報道機関 三條新聞社
- 傍聴者 なし
- 議 題 報告
- (1)令和元年度図書館利用状況について
 - (2)令和元年度図書館事業実施状況について
 - (3)令和元年度蔵書点検報告について
 - (4)令和2年度図書館事業計画について
 - (5)燕市における新型コロナウイルス感染防止対策について
 - (6)吉田図書館の改修工事について
 - (7)燕市立図書館指定管理者再選定について
- 協議
- (1)第1次燕市子ども読書活動推進計画の総括について
 - (2)第2次燕市子ども読書活動推進計画の目標値について

[以下、会議録（要旨）]

報告

(1)令和元年度図書館利用状況について

《事務局説明》

(委員からの質問なし)

(2)令和元年度図書館事業実施状況について

《事務局説明》

(委員からの質問なし)

(3)令和元年度蔵書点検報告について

《事務局説明》

(委員からの質問なし)

(4)令和2年度図書館事業計画について

《事務局説明》

○委員

ブックスタートは7月から開始しているのか。

○事務局

例年は乳児の4か月健診の時に保健センターと連携して行っていたが、今年度はコロナで休止となっていた。保健センターでは、7月から集団健診を再開しており、対面時間を短くするよう、これまでと形を変えて行っている。そのため、今月はまずはその様子を見学させてもらい、8月以降、どの様な形で実施できるか検討、協議をしていく。

○委員

子ども読書活動推進計画とは、子どもに読書をしてもらうことを目的としているが、そのためには、大人への啓発も大切であると思う。その辺の対応策は考えているか。

○事務局

「大人が楽しむおはなし会」という大人向けのおはなし会を実施している。また、各館に分野ごとに絞ったおすすめ本のコーナーを設置し、本に興味を持ってもらうようにしている。

(5)燕市における新型コロナウイルス感染防止対策について

《事務局説明》

○委員

コロナウイルスについては空調の危険性という話を聞いているが、館内の換

気対策はどのようにしているか。

○事務局

3館とも定期的に窓を開けて換気をしている。燕図書館は窓を少し開けて常時換気している。吉田図書館は窓が開かなかつたり、分水図書館は上の方に窓が付いていたりするが、入り口のドアを開けておくなど、常時できるように工夫している。

○委員

特に高齢者などは新聞閲覧で長く留まっているように見受けられるが、声掛けなど対策しているのか。

○事務局

特に時間制限を設けているわけではないが、長くなるような場合はお声がけしている。

○委員

図書除菌機は本を借りた後に自分で使うものなのか。返却後の本には使わないのか。

○事務局

図書除菌機は本を借りた後に利用者に利用いただくもの。これとは別に、「消毒」とまではいかないが、返却後の本には全てアルカリ電解水で拭いて「除菌」している。

(6)吉田図書館の改修工事について

《事務局説明》

(委員からの質問なし)

(7)燕市立図書館指定管理者再選定について

《事務局説明》

(委員からの質問なし)

協議

(1)第1次燕市子ども読書活動推進計画の総括について

《事務局説明》

○委員

コロナウイルスで事業が実施できない状況であるため、本計画の目標指標の変更を次回の図書館協議会で行ってはどうか。

○事務局

本計画の計画期間は5年間。策定時にある程度の社会情勢の変化を承知した

上で目標指標を設定しているものなので、変更せずにより進捗管理を行っていかなければならない。ただし、目標達成ができなかったのなら、当然その理由は明記する。達成できなかった目標指標、その理由、もしその理由が起らなかった場合にどのような結果が想定されたかを明記し、その中で協議をしていただくこととなる。

(2)第2次燕市子ども読書活動推進計画の目標値について
《事務局説明》

○委員

2点要望させていただきたい。計画の指標に図書の出借冊数があるが、今の時代、読みたい本は買って読む。あるいは電子で読む。この時代の流れの中で、この指標はふさわしいとは思わない。本の借出を増やすことはいいことなのか。

それから、新規指標をこれだけ増やして管理が大変ではないのか。スクラップ&ビルドとあるように、新しいことを増やす時は何かを減らすもの。

○委員

図書の借出冊数はあってもいいと思う。先生の熱意にもよると思うが、例えば、燕中では校内借出の強化に取り組んでいる。学習に関する本、職業に関する本など、校内でいろいろな分野の本に親しんでもらうために図書館の活用の仕方があると思う。また、電子媒体の本と紙媒体の本を比べると、電子に比べ、紙の方が五感に働きかけ、記憶もしやすいと、先日論文に書かれていたことを確認した。

また、中学生のお小遣いになると高い本は買えない。中学生にどのような本が欲しいかアンケートをとるのも良い。

○事務局

本の借出冊数が増えることは決して悪いことではない。学校図書には600万円ほど投入し、計画的に購入している。確かに時代の流れを考えていく必要があると思うが、読書活動を推進する一つの目安として、借出冊数を指標にしてもいいと思う。

また、新規指標を増やした件については、1次計画と2次計画を見比べていただくと分かるが、計画の体系が変わった。その体系に合わせて指標を設定したもので、ただ闇雲に増やした訳ではない。読書活動を推進していく上で、現場に無理のない指標を設定している。学校図書館には蔵書管理システムを導入しているため、指標の管理は容易にできる。

○委員

お金をかけているからいいという訳ではない。ものごとのスケールが違う。いろいろな指標があり、その中で図書館に人を呼び込むという指標があるが、生徒は昼休みにしか図書館に行けない。生徒が図書館に行き、グラウンドに遊びに出る生徒が減れば元気のない学校ということになる。全体を俯瞰して見るこ

とが必要ではないのか。

○事務局

この計画は子ども読書活動の推進計画である。一つの指標になりうると認識している。

○委員

学校の図書ボランティアについて、やりたいと思っても学校からの働きかけがないと、自分からやりたいと言いくい。やりたいと思っても在籍していない地域のボランティアもいる。地域全体に声掛けしてもらえるといい。

○委員

燕西小の取組では、学校と連携し地域の回覧版をまわし知らせるようにしている。

○事務局

学校の図書ボランティアについては、担当が学校教育課になる。ボランティアのお願い等については学校教育課より校長会を通じてお願いしたいと思う。

○委員

ボランティアについては、コロナで遠慮したりしている状況もある。市として、それぞれの学校図書ボランティア同士のネットワークづくりをしてほしい。

閉会